

【二〇〇二年度修士論文・卒業論文題目一覽】

〈修士論文〉

九世紀における宗教政策

— 神仏習合現象を中心に —

房総里見氏に関する一考察

— 二度の内訌を中心に —

明治維新期における軍制構想

塘沽協定と華北政策 — 一九三三〜一九三七年 —

中世大和国興福寺領における代官請負制とその諸相

祥瑞災異思想の展開 — 八世紀を中心として —

伊勢平氏の歴史的性格

— 平正盛・忠盛・清盛三代を中心として —

徳川家臣団の基礎的考察

戦国期越後国における長尾上杉氏の権力形成過程

〈卒業論文〉

武田領国における金山についての一考察

古代国家の蝦夷観とその実態

魔女狩り — いかにかして魔女とされたか —

戦国期都市に関する一考察

土のグスクの起源とその背景に関する考察

ナチスのユダヤ人迫害

— 独ソ戦とナチスの「最終的解決」 —

フランス革命期に生まれた芸術

— 芸術が語る歴史について —

いわゆる「南京事件」をめぐる論争について

弟橘媛の入水伝承とヤマトタケルの東征

古代日本における常世観

宋代巫者をめぐる諸問題

中近世移行期の喜連川氏についての一考察

ラテン帝国の成立とその背景

南宋期秦檜政権期の執政

日中における近代化の比較研究

— 洋務運動と明治維新 —

戦国城下町の構造と機能

大東亜会議をめぐる諸問題

艇盗の乱研究 — 察牽と李長庚を中心に —

サファビ朝の首都イスファハーンの研究

家訓に見る近世商人の思想

弥生時代における漁撈具の地域性

「北条幻庵おほえ書」の研究

中世都市鎌倉の道路の様相

古代社会における言霊の役割

元代達魯花赤に関する一考察

金井 一樹

野口 久美

三輪 和也

太田 薫

黒川友紀子

石渡 貴

立谷 明子

永田 亮

町田 勇輝

新井 唯史

鈴木 耕太

寒河江耕作

山本 啓登

小暮美恵子

久我 巧

馬場 裕史

仲澤 香織

立川 明子

谷奥 美鈴

佐々木孝明

青銅鼎による楚文化についての一考察

神奈川県における柄鏡形(敷石)住居の様相

新世界(アメリカ大陸)による

旧世界(ヨーロッパ大陸)への影響

現代アメリカの出現

—セオドア・ローズベルトとその時代—

獸形具製品の性格とその流通

アイヌのチャシンの起源について

神奈川県における弥生時代の生業

—稲作導入期に関する一考察—

明代の社会学について

十九世紀から二〇世紀におけるロシアバレエ

—メートル・ド・バレエ・マリウス・プティパ—

機器分析による産地同定に基づく関東の黒曜石の流通

国共両党満洲をめぐる争奪戦

明清時代の庶民生活と文化

縄文時代後晩期における

土製耳飾りの生産と交易について

中世フランス ゴシックの大聖堂について

チベット曼荼羅の表現方法

宝飾鏡と三角縁神獸鏡の關係について

元代の科挙復興 —主に延祐期の科挙について—

記紀神話にみる皇祖神の二元性

木暮 直隆

馬杉 麻奈

小山 英幸

古谷 恒憲

吉本 冬紀

金田 祐二

斎藤 麻美

杉山 禎広

石田 彩子

井上敬次朗

高橋 淳一

三上 紗代

板倉 千春

前田いづみ

山崎みれい

岡島 尚史

加藤 泰久

川崎 泰範

『藤岡屋日記』に見る江戸の社会

旧石器時代におけるナウマンゾウの骨器

トイレの起源と変遷についての考古学的考察

秩父事件について

ヨハン・セバステイアン・バッハの市民へ受容について

十九世紀フランスのファッションとその社会

古墳時代前期における讃岐の埋葬頭位

—周辺地域との比較検討—

鉄砲伝来とその受容 —武田氏・北条氏を例にして—

九州地方の石人石馬について

近世における下野国思川舟運と乙女河岸

フランス革命期における女性の役割について

十八世紀フランスの貴婦人

—革命期前の「幸福」な時代—

秋留台地とその周辺における古墳時代後期の様相

北武蔵における古墳時代後・終末期の鉄鏃の様相

—比企・埼玉地域を中心として—

清朝の宮廷食文化について

縄文時代の服飾

清末の中国近代化と日本人教習

古代における国司制の成立

靱面埴輪の性格に関する一考察

環状列石を構成する配石遺構の形態と性格

福田 新子

後藤 伸也

小林 洋之

吉岡淳一郎

毛利 彩乃

小久保千春

芝原 豊文

岡崎 隆一

加藤 文

野沢 保隆

後関ますみ

西崎めぐみ

松澤 直大

折原 覚

田嶋ゆい子

石塚 哲也

杉山 明彦

宇田 武史

島 純子

西村 公威

熱海温泉を中心とした近世の温泉

向山 志保

古代エジプトの死生観

沢口さやか

戦前・戦後の歴史教育の変化

堅穴住居のベッド状遺構について
ビスマルク失脚について

菊池 大河

— 戦前歴史教育と戦後GHQの歴史教育の違い —

— その政治・経済・社会的背景について —

村上 徹

日本古代の「大元」について

中澤 瑞枝

学制の成立過程について
グノーシス主義と古代ヨーロッパ社会

藤 勝典
山下 高志

中世における政治思想

原田 諭

太平洋戦争期の国家神道

志村 文

— トマス・アクィナスを中心として —

伊藤 暁子

— 「八紘一宇」をめぐって —

大場智恵美

中国女性史研究 — 男と女の関係 —

松本 陽

平安貴族の服装とその色彩
明治六年政変に於ける江藤新平と大久保利通

岩田 直也

江戸時代における庶民の服飾について

倉成 陽子

ヨーロッパ中世のベストとその影響

高山 泰洋

— 流行と風俗取締りを中心として —

河村 和也

第二次世界大戦における、スイスの中立について

岡田 恭子

将軍継嗣問題に関する一考察

今野 透

戦中・戦後の民衆意識の変化

前田 裕子

戦国社会と不入権

西岡 絵美

ファンタジーと歴史の接点

石井奈緒美

十九世紀後半のアメリカにおける

加藤 一博

銅鐸に描かれた絵画とその意味

原 千笑

ネイティヴィズムと移民制限への道

原田 圭介

カーニバルの効果 — 中世の祝祭文化と民間信仰 —

嶋村 恵子

華族令制定に関する研究 — 井上毅を中心に —

原田 圭介

春秋戦国時代における銅鏡の発展

比嘉兼太郎

明初太祖朱元璋による法治政策

原田 圭介

江戸幕府老中職就任者に関する一考察

井上 英紀

— 地方統治における老人の役割を中心として —

萩原 美和

— 就任者の封地・石高・家格・官位を中心に —

大熊 健二

初期鎌倉幕政史の展開に関する一考察

千葉 仁美

大熊家と諏訪高島藩について

佐々木章充

— とくに頼家専制から執権政治への過渡期をめぐって —

小島 賢志

戦後日本政治と日米安保体制

五月女宗大

神仏思想から見た大和政権と常陸国

織田信長と朝廷をめぐる一考察

一九九〇年代のアメリカ経済 — 「フロンティア」への新たな挑戦 —

五月女宗大

平安時代の婚姻制について

戦国大名と御用商人 ―とくに東国大名を中心に―

近世における川崎域の村々とその農民について

キリスト教の問題点について ―救済論からの視角―

ビスマルク外交と政治

近世における東海道神奈川宿の機能と構造

外的要因より見た明王朝の滅亡

魚野川流域における縄文時代の住居

稲作農耕の伝播と系譜

明代の後期倭寇と密貿易

アーサー王伝説とその社会

―十四〜十五世紀を中心として―

中・近世における女性とその社会的地位

幕末期における会津藩の動行について

―京都における倒幕派との衝突―

河北三鎮について

近世の女性史 ―出産を中心とした女性の一生―

戦国大名武田氏の小田原侵攻とその背景

―駿河攻略を踏まえて―

正力松太郎と職業野球

中世のキリスト教、異端対策にみる教権と俗権

古代日本の刀と鉄器文化

戸倉 瑞希

森田 光博

田口 貴之

松嶋 健吾

杉浦 正倫

田村 陽平

松原 裕

川口 直人

青沼 弘樹

清水 良

森川 英由子

藤田 真紀

足立 憲功

黒田 一弘

真中 敦子

松本 大吾

土屋 正美

長谷部 晋也

由利 哲昭

出雲地域の特殊性について

―神庭荒神合遺跡の検討から―

戦国期寺内町の研究

日中両国近代化の比較研究

中世都市鎌倉の成立と展開

―商業都市としての鎌倉を中心に―

江戸幕府の江戸庶民救済政策について

平安後期の仏師の活動

畿内古墳造営終焉の要因について

―薄葬令を中心として―

戦国期越後国人衆の存在形態

コンスタンティノープルにおける海軍の攻防戦

―ビザンツ側対トルコ―

年中行事に見る江戸の文化とその変遷

大航海時代、イエズス会による日本での布教について

モンゴル帝国における駅伝制の整備について

近世庶民の婚礼と出産祝儀帳についての一考察

―信州筑摩郡今井村名主筒井家を事例として―

江戸の循環型社会に関する一考察

―庶民の資源に対する意識から―

騎士修道会の設立とその影響

古代の駅制について ―足柄の関を中心に―

大内 多絵

佐藤 拓馬

菅沼 光大

片桐 康哲

熊谷 衣理

千葉 史

浅香 肇

小原 智和

荻原 圭

田中 聡美

石田 有紀子

川又 高史

内川 佳子

山本 和正

田邊 泰征

井上 信太郎

近世関東における山間村落

— 八王子周辺地域の炭産業を中心に — 田中 論史

アメリカン・マガジンにみるニューヨークの台頭

— 十九世紀末〜二〇世紀初頭を範囲とする — 山田 静

九州地方における裝飾古墳について 清水 絵美

三国志と三国志演義の比較研究 大賀 寛倫

戦国時代の齊について 平尾伊佐雄

明代フフホトにおける白蓮教徒について 奥原 雄樹

安倍晴明の虚像と実像 大泉 優介

明治期における別荘の政治的利用について 加藤 将

幕末期における外国人から見た日本人の生活と慣習について 岸下あゆ美

中世末期の神聖ローマ帝国

— 十五・十六世紀におけるハプスブルク家の帝国支配 —

新井 智洋

田端 孝志

佐藤 裕幸

黒田麻里名

中国における喫茶の普及 — 唐代を中心として —

現代中東史における暗殺と和平

— 英雄と裏切り者、二つの顔をもった男サダト — 曾我 俊之

満洲映画協会と甘粕正彦 宮下 晋

富山県における寺子屋について 増田 正彦

草戸千軒町遺跡における木簡、木札についての考察 森田 泰弘

白村江の戦いにおける武器に関する考察

戦国時代の農民に関する一考察 — 越後を中心として —

石原莞爾の国防国策と関東軍 櫻井 和夫

エジプト新王国時代アマルナの庭園内祠堂に関する一考察 五十嵐浩司

古代の教育制度について 秋山 淑子

墳墓から見た北陸地方の社会構造 佐野 直幸

アヘン戦争に至る背景と過程 — 清朝とイギリス — 前田 亮一

明代女真族の商業活動について 笠原 理恵

殷周青銅器の饕餮紋についての考察 小柳 貴史

近世の疱瘡対策 関 麻美

— 種痘普及以前の民間における疱瘡への対応 — 山本 陽介

細石器の伝播と地域性 小野瀬悠一

土器からみる下総国の古代集落 工藤 朱里

満洲事変の展開と、その特色 宇田 祐馬

宋代の南海貿易 富澤 聡紀

太平洋戦争における日米の情報戦について 田中 広美

日野富子とその家族をめぐる一考察 細谷 美英

アジア太平洋戦争における軍事と医学 大滝 英輔

ホイアン地域における遺跡の考古学的考察

— ホイアンとタインチュムの比較を中心として — 半田 素子

十九世紀後半におけるインディアンの大量殺戮について 鈴木 健久

敵島合戦時における村上氏の動向

南アフリカ共和国における社会運動史

——一九七〇年代の黒人意識運動を中心として——

新田開発政策の歴史的展開 ——越後国を中心に——

オルドスにおける春秋戦国時代の匈奴墓について

中世初期イ・ネール王国と修道院組織について

南宋初期の武將劉光世について

弥生時代における貝輪研究 ——南海産貝輪を中心に——

黙示録とは？ ——宣伝文的特徴と正典性について——

近代における清朝の欧米認識

朝鮮通信使と江戸の社会

太閤秀吉と佗び茶人利休の文化的価値観をめぐって

北条氏邦の家臣団構造

北海道アイヌの文化形成について

——擦文文化との関連から——

出現期前方後円墳と弥生墳・丘墓の比較研究

——その共通性と隔絶性を中心として——

ラヴェルディの改革と地方長官制

阿倍比羅夫の北征

麴氏高昌国 ——漢人植民王国としての性格——

「ヴァイマル」体制下における思想的状況

——ケスラー伯を中心に——

將軍山古墳からみる埼玉古墳群の性格

上東 涼子

地図に見るヨーロッパ人の世界観

——十六世紀ヨーロッパの世界観の革新——

小屋 亮

尾坂 充弘

高見 哲士

中山 泰充

小長谷英之

小澤 泉美

内藤 洋介

岡本 円

西村 葉子

大森 泉

宮前 功

盛田 朋奈

堀渕 宜男

赤塚 智裕

木目田知宏

中澤 香梨

藤田 東之

前島 淳

入山 一洋

中村 泰裕

渡部 正和

和田 拓磨

小林 孝彦

池上 達也

岡嶋 由起

岡田 充史